

## 「健康ニーズと情報行動に関する調査2007」結果の速報 “メタボ”と知って、変化現わる

株式会社日本能率協会総合研究所(代表取締役社長: 榮 武男 本社: 東京都港区)は、2007年9月~10月に首都圏在住の15~69歳の男女個人を対象に、「健康ニーズと情報行動に関する調査2007」を実施いたしました。本調査は、一般男女の健康に対するニーズを明らかにするため、健康状態と健康観、健康意識と情報行動、生活習慣病に関する意識と行動、メタボリックシンドロームに関する意識と行動、食生活に関する行動、栄養素・健康食品素材の認知・摂取意向等について調査いたしました。この調査の中から、“メタボリックシンドローム”に焦点をあて、下記のような実態が明らかになりましたのでご報告いたします。

(<http://www.jmar.biz/hot/hotanq28.html>)

### “メタボ” “メタボ” と騒がれて、40代男性はお腹ポッコリ体型返上。

メタボ体型の人は、男性は40代で44%なのが50代60代で60%と、40代から50代にかけて急増。2006年まで男性40代~60代で5~6割だったのが、男性40代が10ポイント、女性40代が7ポイント減少。

### 健康用語で「メタボリックシンドローム」急浮上、

### 「体脂肪」「内臓脂肪」と“脂肪系”用語が上位独占。

トップは「体脂肪」で59%、次いで「内臓脂肪」50%、「血液サラサラ」48%、「中性脂肪」40%と続き、「メタボリックシンドローム」は5位。2005年1%、2006年27%、2007年39%と急浮上した。

### 「メタボリックシンドローム」はテレビで知って、3人に2人は意味を理解。

理解している人が65%、「見聞きしたことがある程度」まで合わせると99%の人が認知している言葉。認知経路は、「テレビ」87%、「新聞記事」49%、「雑誌記事」25%と、マスコミが優位。

### 男性は30代で不安増大、40代で“メタボ”体型を自覚し、

### 50代から気づかう生活に。

「とても」「やや該当する」を合わせた自覚者は約3割、男性年代別で40代が44%とピーク。「とても」「やや不安」を合わせた不安な人は約5割、男性年代別で30代が63%とピーク。「積極的に」「まあ気づかっている」を合わせた気づかっている人は約4割、男性年代別で50代が56%とピーク。

#### 【 調 査 概 要 】

- ・ 調査対象 : 首都圏に居住する15~69代の男女個人
- ・ 調査方法 : 日本能率協会総合研究所「J-FAXリサーチ」システム利用によるFAX調査
- ・ 有効回収数 : 1,099人(発送数1,500人、有効回収率73.3%)
- ・ 調査実施日 : 2007年9月28日(金)~10月3日(水)

#### 《本件についてのお問い合わせ先》

株式会社日本能率協会総合研究所

生活者HOTアンケート事務局 担当:土井

〒105-0011 東京都港区芝公園3-1-22 日本能率協会ビル6F

TEL:03-3578-7602 FAX:03-3578-7614 E-mail:info\_mlmc@jmar.co.jp

## “メタボ”“メタボ”と騒がれて、

## 40代男性はお腹ポッコリ体型返上。

2007年「健康ニーズと情報行動に関する調査2007」では、2006年「健康ニーズ基本調査2006」につづき、自己申告の体重・身長・腹囲(ウェストサイズ)を聞いています。そこから、「男性の腹囲85cm以上」「女性の腹囲90cm以上」、かつ、体重と身長より計算した「BMI値が25.0以上」の人をいわゆる“メタボリックシンドローム”予備群の体型(有病者を含む)と定義しました。

厚生労働省「国民健康・栄養調査」では、実際に身体状況を計測した上で同じ定義の人の割合を平成15年(2003年)から発表しており、先日、平成18年(2006年)の速報が発表されました。これらの結果から、40代～60代男女の予備群の比率を時系列で見たのが図表1です。

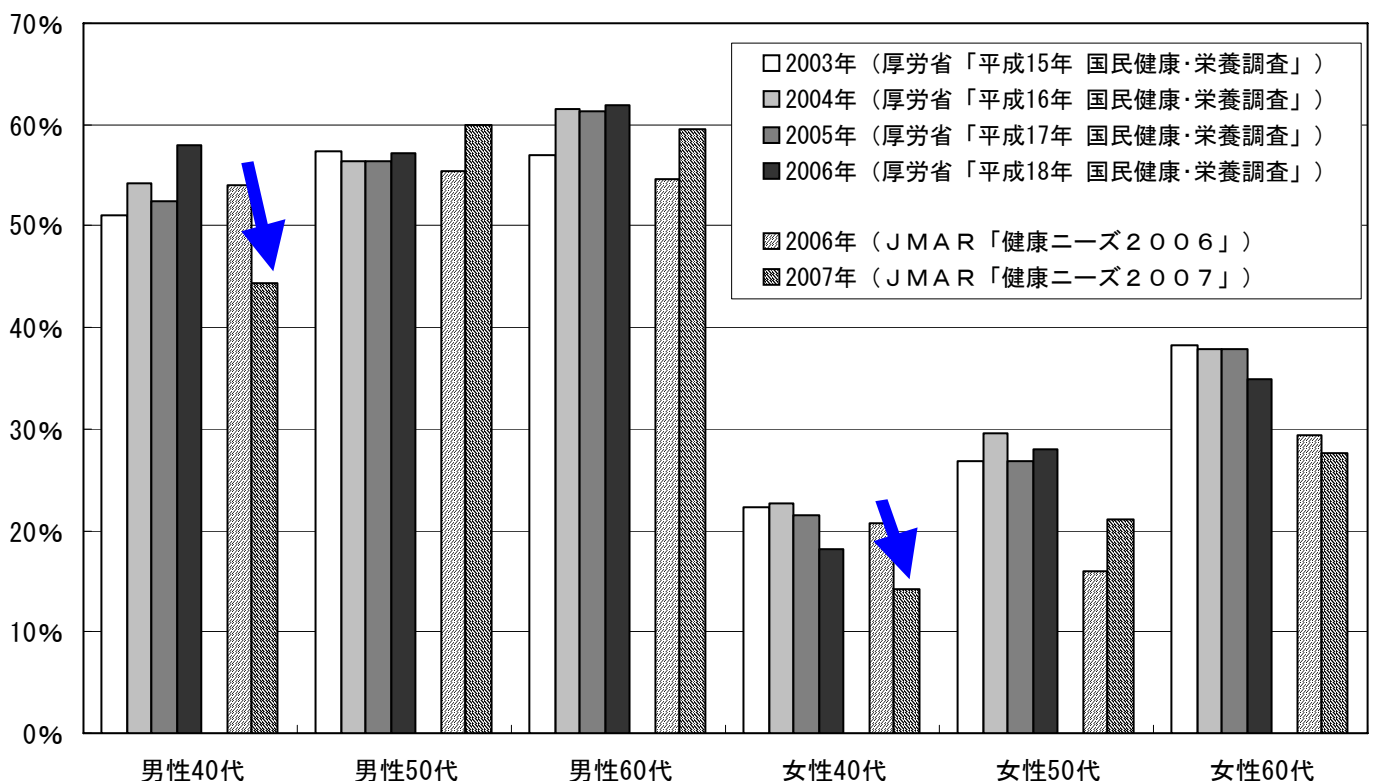
2007年調査の結果をみると、男性は40代で44%なのが50代60代で60%と、40代から50代にかけてメタボ予備群の体型の人が急増、女性は40代で14%・50代で21%・60代で28%と加齢とともに、メタボ体型になる人が増加という傾向です。

2006年までの調査結果は、男性40代～60代では5～6割と過半数が、女性は40代で2割・50代で3割・60代で4割弱が、メタボ体型でした。それが、特にこの1年で男性40代が10ポイント、女性40代が7ポイント減少しています。また女性60代も年々減少傾向です。

厚生労働省から、「40～74歳でみると、男性の2人に1人、女性の5人に1人が、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)が強く疑われる者又は予備群と考えられる」(「平成16年 国民健康・栄養調査結果の概要について」より)と衝撃的な結果が発表されたのが2006年5月です。それから“メタボリックシンドローム”はマスコミで話題となり、日常会話でも“メタボ”と気軽に略されるようになりました。ウェスト85cm以上は“メタボ”、太っていると外見で損をするだけでなく、病気になると浸透してきたのでしょうか。

その結果、実際に体型に現われたのでしょうか。“メタボ”体型を意識して、食べるのをガマンしたり、運動したりと、努力して体重を減らし、お腹ポッコリを解消した人が少なからずいるのです。中には自己申告のウェストサイズだから86cmでなく84cmと書いておこうという人もいるかもしれませんが、特に40代男性・女性では、“メタボ”体型が減少しています。

図表1 性・年代別メタボ体型予備群の推移



## 健康用語で「メタボリックシンドローム」急浮上、 「体脂肪」「内臓脂肪」と“脂肪系”用語が上位独占。

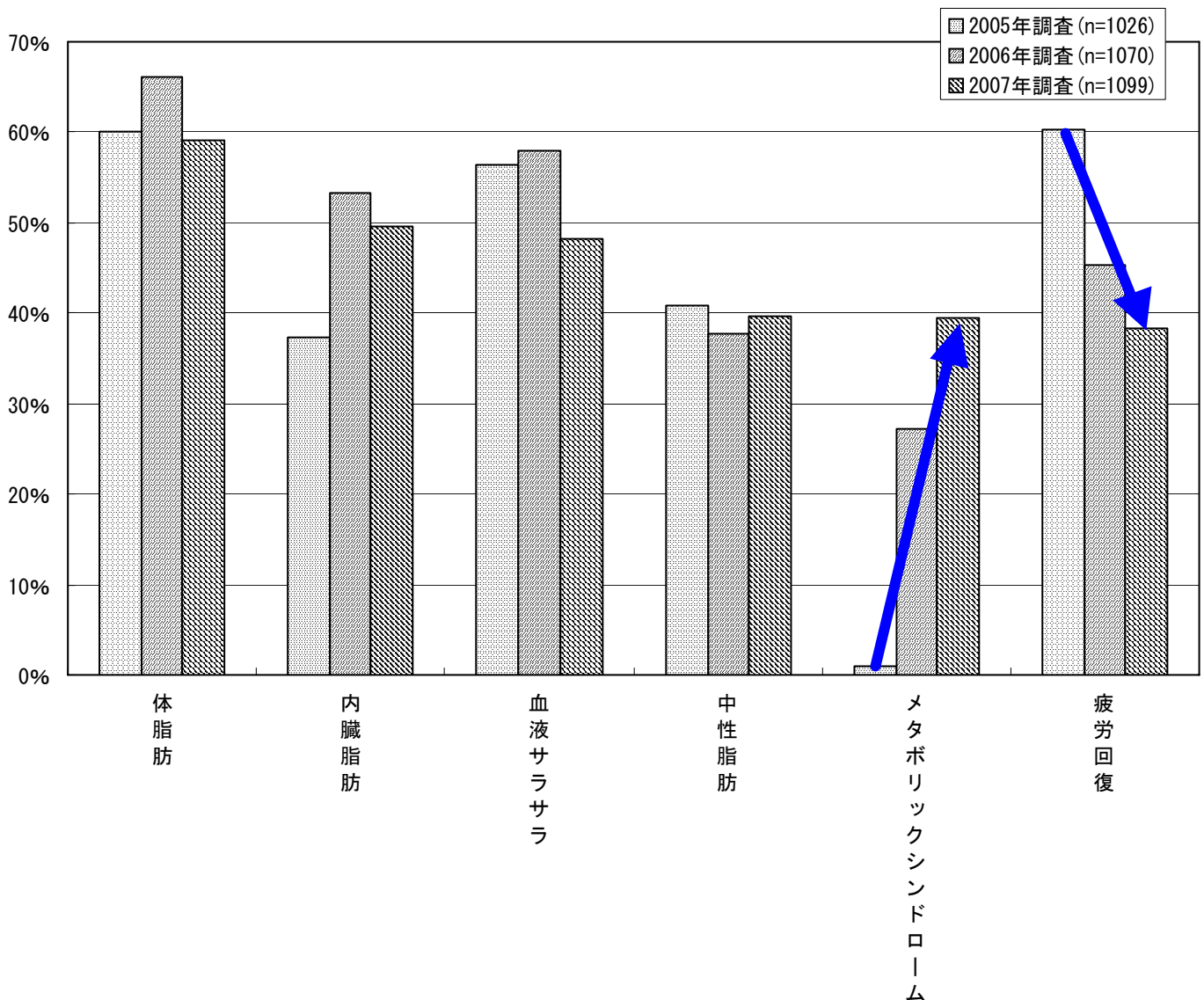
最近の健康に関する用語を20項目挙げ、気になっているものを選んでもらいました。

トップは「体脂肪」で59%の人が気になる健康用語に挙げています。次いで「内臓脂肪」50%、「血液サラサラ」48%、「中性脂肪」40%と続き、「メタボリックシンドローム」は5位にランクインしました。いずれも“脂肪”“コレステロール”等、“メタボリックシンドローム”に関連する用語が上位に挙がっているといえるでしょう。

「メタボリックシンドローム」という言葉自体についても、時系列の推移をみると、2005年には1%と、誰も気にする人のいない言葉でした。それが2006年で27%、2007年で39%と、厚生労働省の発表をきっかけに急浮上したものと思われます。

ここ数年上位を占めていた「疲労回復」が6位と順位を下げ、気にする人が減少してきたのも、“メタボ”に関心がシフトした結果、相対的にスコアを落としたのでしょう。

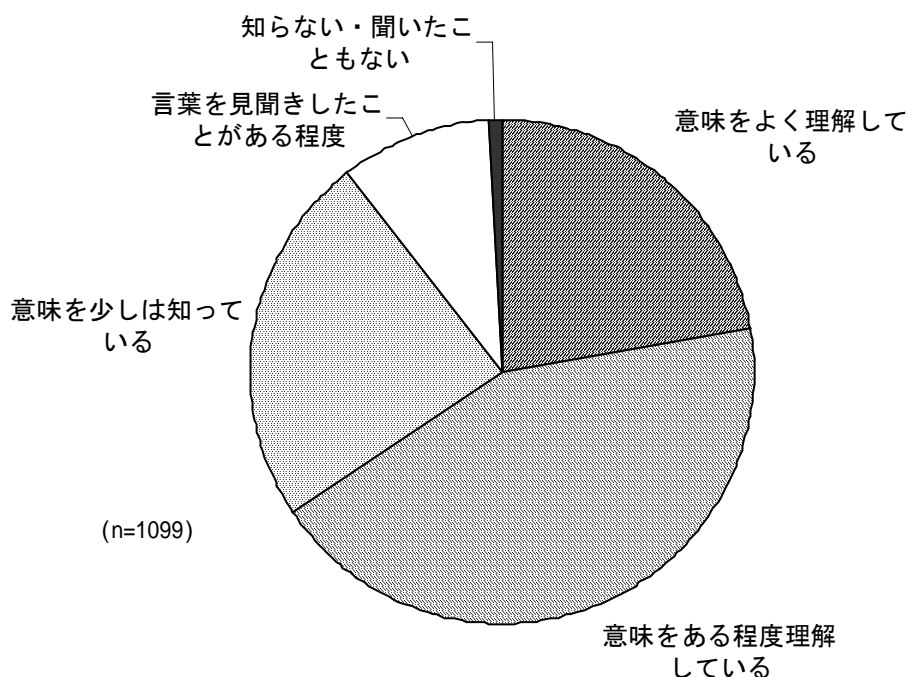
図表2 気になる健康用語 (MA)



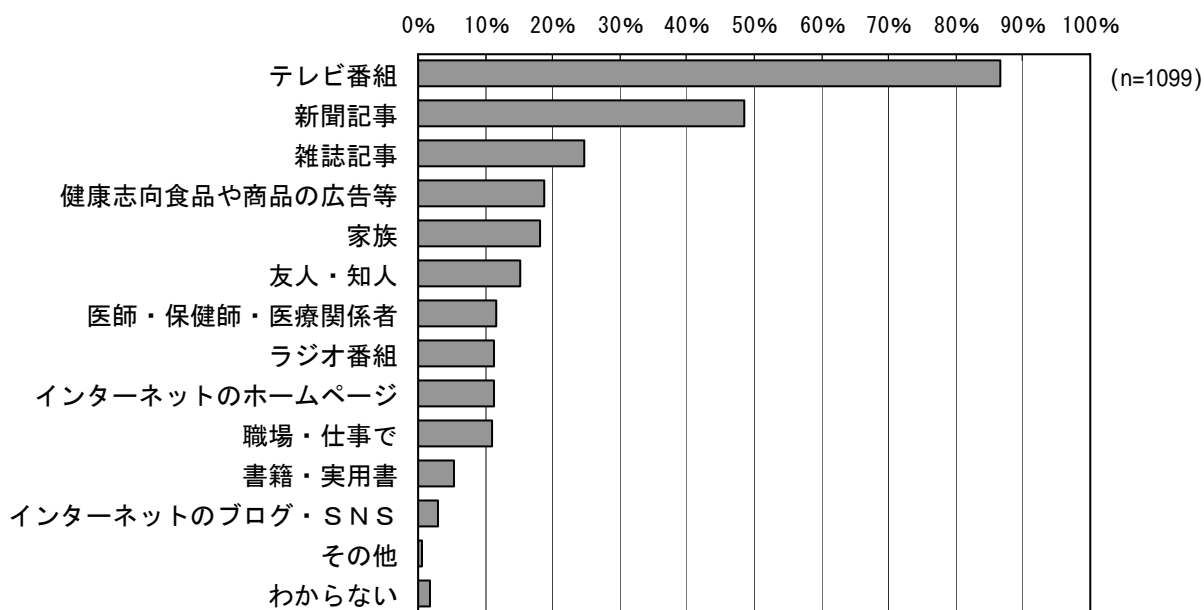
# 「メタボリックシンドローム」はテレビで知って、 3人に2人は意味を理解。

話題の「メタボリックシンドローム」という言葉について、認知状況と認知経路を聞きました。  
2007年10月の調査時点では、「意味をよく理解」「意味をある程度理解」を合わせて理解している人が65%と3人に2人、「見聞きしたことがある程度」まで合わせると99%の人が認知している言葉でした。  
認知経路としては、「テレビ」87%、「新聞記事」49%、「雑誌記事」25%と、マスコミが優位でした。

図表3 「メタボリックシンドローム」の認知 (SA)



図表4 「メタボリックシンドローム」の認知経路 (MA)



## 男性は30代で不安増大、40代で“メタボ”体型を自覚し、50代から気づかう生活に。

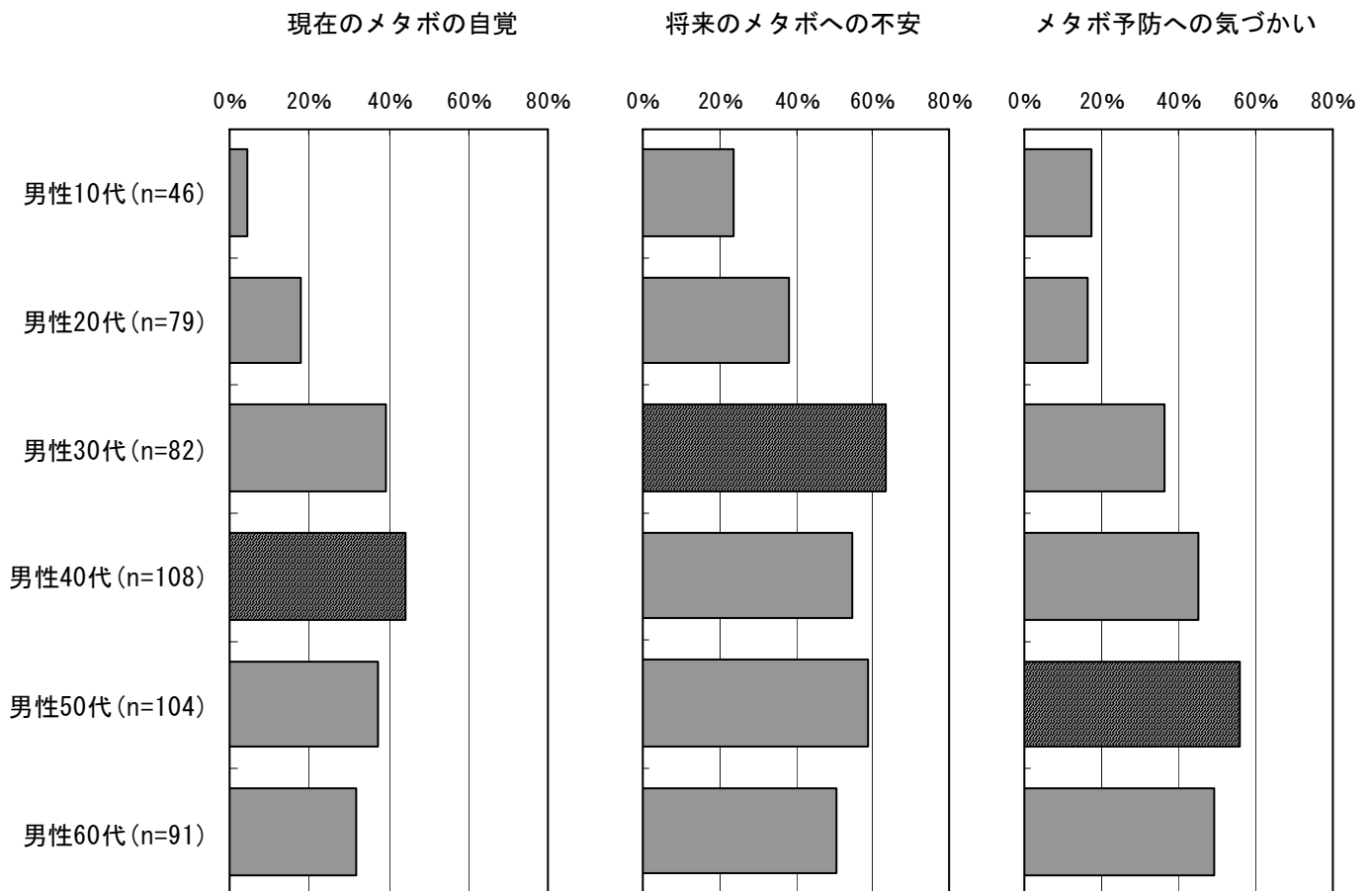
「現在、あなたご自身は『メタボリックシンドローム』に該当すると思いますか?」と自覚を聞いたところ、「とても該当と思う」「やや該当と思う」を合わせた自覚者は約3割でした。自覚者の割合を男性の年代別に見ると、40代が44%とピークになります。

次いで、「将来、あなたご自身が『メタボリックシンドローム』になる、または症状が深刻化することに対して、どの程度不安を感じますか?」と将来不安を聞いたところ、「とても不安」「やや不安」を合わせた不安な人は約5割でした。男性を年代別に見ると、男性30代が63%とピークです。

さらに、「あなたは、普段、『メタボリックシンドローム』の予防に気づかっていますか?」と気づかいを聞いたところ、「積極的に気づかっている」「まあ気づかっている」を合わせた気づかっている人は約4割でした。男性を年代別に見ると、男性50代が56%とピークです。

男性は、“メタボ”について30代で不安を感じ、40代で自覚し、気づかうのが50代になってからということが言えます。10代・20代は好きなだけ食べても運動もしており体型を保っていたのですが、30代になると少しずつ体重が増えたりお腹が出てきたりと、“メタボ”体型になりつつあるのか不安が増大します。40代でその体型を自覚するのですが、なかなか生活を変えることが出来ません。50代になってようやく、食べるものに気づかったり運動したりと対策し始めるのでしょう。

図表5 男性の年代別“メタボ”意識 (SA)



「健康ニーズと情報行動に関する調査2007」は、一般男女の健康に対するニーズを明らかにするため、首都圏在住の15～69歳男女個人を対象に、下記項目について調査しました。

健康状態と健康観  
健康意識と情報行動  
生活習慣病に関する意識と行動  
メタボリックシンドロームに関する意識と行動  
食生活に関する行動  
栄養素・健康食品素材の認知・摂取意向

本調査は、健康マーケティングのための基礎データです。今回はその中から、「メタボリックシンドローム」に焦点をあて、「性・年代別メタボ体型予備群の推移」「気になる健康用語」「『メタボリックシンドローム』の認知と認知経路」「男性の年代別“メタボ”意識」について結果の速報を報告しております。

(<http://www.jmar.biz/hot/hotanq28.html>)

### 【調査購入のご案内】

本調査は、弊社自主企画による調査に複数企業をご参加いただく方式で実施し、以下のアウトプット一式を提供いたします。

- ・購入費用：定価400,000円(税込420,000円) / M D Bメンバー価格360,000円(税込378,000円)
- ・調査のアウトプット
  - (1) 調査報告書：A4判・88ページ・2007年11月発行
  - (2) 集計結果表：A4判・693ページ・2007年10月発行
  - (3) 集計データ(CD-ROM)：クロス集計、ローデータ、他

本調査の成果物の著作権は(株)日本能率協会総合研究所が保有します。

弊社は、本調査にご参加・購入いただいた企業(法人・個人)以外には、成果物を提供いたしません。ただし、本調査を告知するための限定的な利用、及び発刊から一定期間経過後はこの限りではありません。

本調査の成果物のご利用はご参加・購入いただいた企業(法人・個人)の内部でのご利用のみに限らせていただきます。

### 《本件についてのお問い合わせ先》

株式会社日本能率協会総合研究所

生活者HOTアンケート事務局 担当:土井

〒105-0011 東京都港区芝公園3-1-22 日本能率協会ビル6F

TEL:03-3578-7602 FAX:03-3578-7614 E-mail:info\_mlmc@jmar.co.jp

2007年5月に移転いたしました。 <http://www.jmar.biz/hot/>

**本件引用の際は、お手数ですが、上記あて掲載紙をご送付ください。**